

「他者との学び合い」を創る遠隔合同授業

— 高等部2年保健体育科の実践事例 —

肢体不自由特別支援学校の準ずる教育課程の体育指導場面では、同学年で学習集団の形成だけではなく、他学年又は同学部の他の教育課程の児童生徒と学習集団を形成することも多い。当校の対象生徒においては、中学部の頃からほぼ同じ学習集団で過ごしており、新しい意見を取り入れることや初めて会う人に分かりやすく自分の考えを伝える経験が乏しいため、より良い伝え方、表現の仕方を獲得することが課題となっている。そこで、3回の遠隔合同授業を通して、新しい学習集団の中でコミュニケーションを取り合い、自分の考えを伝えること、他者の意見を受け、より良い表現方法を獲得することを目指した。

I. 問題提起と目的

当校の体育指導における課題の一つとして、固定化された学習集団では、新しい意見の表出や技能の習得につなげる難しさが挙げられる。

遠隔合同授業における体育を行う指導者の課題として、寒河江（2022）は、「体育の学習における遠隔合同授業を行う際の効果的な単元や活動の整理が必要と考える」（寒河江核（2022）pp. 29 - 36）と述べている。主体的・対話的で深い学びを促進する効果的な単元や活動を整理するとともに、生徒自身が課題発見できる活動や自他共に評価し合える活動を行うことが必要である。

今回の研究では、高等部の生徒を対象に、ダンスの単元、生徒同士の意見交換の活発化を図るとともに、他校の生徒との遠隔合同授業を組み込むことで、自分の意見を相手に伝えること、意見交換を通して新しい技能の習得を目指すことを目的とした。

II. 方法

1. 対象学級

（1）学級の構成

準ずる教育課程に在籍する、肢体不自由を有する高等部2年生8名。

（2）生徒の実態

体育を行う際に手動車いすを使用する者が6名、電動車いすを使用する者が2名である。全生徒に共通して上肢・下肢の操作に制限があり、素早い動きや細かい動きが苦手である。ダンスにおいては、表現の仕方について考え、上半身や車いすの動きを活用し表現方法などを工夫している。

学力面に関しては、全体的に学びに向かう力は高く、知識及び技能において表現方法を考案することに困難を感じる生徒も一部いるが、発問への応答やこれまでのダンス経験から理解を深めさせることが可能である。しかしながら、一連のダンスにおける振り付けやフォーメーション変化を

伴う動きを整理して、自己の表現を行ったり、説明したりすることには時間を要する場面が見られる。

当該学年の生徒は知識及び技能を表現する力が低い傾向にある。今回の遠隔合同授業では、必要な知識及び技能の定着を図る反復学習とともに、互いに確認し合う時間を確保する必要がある、発言を促したり、気付いていない視点を提示したりして自己理解と表現力の成長を促す必要がある。

（3）接続校の対象学級

群馬県立x特別支援学校（以下x校）の高等部1～3年生計8名であり、当該学年及び、下学年の指導目標や指導内容により学習している。

2. 手続き

（1）対象授業

①単元名

ダンス「創作ダンス」

②学習指導要領上の位置付け

高等学校では、これまでの学習を踏まえて、感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をする」ことなどができるようにすることが求められる。

音楽に合わせて身体を動かし表現することの楽しさや他者とともに身体を動かして表現することの楽しさを味わうことは豊かなスポーツライフにつながり、表現を味わった上で自分の人生に取り入れていくのか、取り入れずに見ることで楽しむのかなど、自ら選択することで人生をより豊かにすることに近づくといえる。

③単元の指導目標

・ 知識及び技能

感情を込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする多様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をできるようにする。

・ 思考力、判断力、表現力等

ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、体力

の高め方、課題解決の方法、交流や発表の仕方などを理解し、自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

・ 学びに向かう力、人間性等

ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしながら合意形成に貢献しようとする態度を養う。

④授業づくり・単元づくりの視点

授業づくり・単元づくりの視点を考えるにあたり、教科についての理解と子供についての理解を整理した。教科の資質・能力を育成するための遠隔合同授業の活用の在り方において、運動観察から自己の考えを持つこと、自己の考えを他者へ伝えること、他者の意見を基に自己のより良いダンス表現について考えを深めることをねらいとした。具体的には、以下の内容で両校共に遠隔合同授業の際のねらいとした。

- ・ 既習の動きに捉われず、新たな動きや表現方法を獲得することができる。
- ・ 相手の動き方や表現の仕方を見て、考えたり分析したりすることができる。
- ・ 自己で考えたり、分析したりしたことを分かりやすく言葉にして相手に伝えることができる。
- ・ 自分の考えを持ち、議論を通して表現することができる。
- ・ 多様な他者の意見や考え方に触れ、新たな考えや方法などを統合したり目的に合わせて評価したりして、よ

り良い学びを生み出すことができる。

⑤単元計画

ダンスの内容については、中学部より取り扱っており、その際にフォークダンスや創作ダンスとして学習している。また、運動会を通して集団によるダンスを毎年経験している。しかしながら、生徒たちにはダンスにおける表現方法、動きや向きの捉え方などを理解している者とそうでない者がおり、実際に他者の動きから自分の動きとして表現していくことに困難さを見せている。

そこで、創作ダンスの表現方法や集団で連携した動きについて自己で考えたり、動いたり、仲間に伝えたりして、集団でのイメージの明確化やそれを表現していく方法を明確にできるように授業づくりを行った。内容として、遠隔合同授業を単元計画内に位置付け、楽曲に対するイメージを文章化したり、口頭で説明したり、動きとして相手に見せたりすること、撮影した映像を見て自己の動きと他者の動きをリンクさせたり、気付いた点などを口頭で分かりやすく相手に伝えたりする機会を設定した。映像視聴では、表現方法や動きのポイントを絞ることで見る視点と変化を分かりやすくした。(表1)

また、自己の考えだけでは出せなかったアイデアや表現方法を受け止め、自己のより良い表現につなげるために考えたり提案したりする様子が授業内や振り返りのワークシートから見られるようになること、伝え合う経験が後の集団活動において考えを提案したり修正したりしていく場面に活かされることを望み、評価のポイントとして各時数の中で評価した。

表 1 授業のねらいと活動内容

時数	学習のねらい	活動内容	評価のポイント			
			知	技	思・判・表	主
1	ダンスの特性や学習方法を理解する。即興でリズムをとり、人前で表現をすることができる。	ダンスの基本知識を動画や口頭で確認する。身近な日常動作や楽曲に合わせて即興でダンスをする。	○			○
2 遠隔①	ダンスを通じて、相手の動きを捉えたり、自己の考えを伝えたりすることができる。	一つの楽曲のサビ部分のみを聞き、イメージを口頭で伝えたり、書き出したり、動きとして見せたりする。			○	
3	楽曲に合わせた振り付けや動きをすることができる。表現方法について集団で話し合うことができる。	イメージした内容を振り付けにしていき、サビ部分の振り付けを完成させていく。		○		
4 遠隔②	相手のダンスの振り付けを見て、身体の動きや表現を捉え、言葉にして相手に伝えることができる。	完成したサビ部分の振り付けを発表し、評価し合う。(X校⇒桐が丘⇒評価)発表の評価を振り返り、自己評価を行い、発表する。楽曲の1番をイメージで共有する。		○	○	
5	楽曲に合わせた振り付けや動きをすることができる。表現方法について集団で話し合うことができる。	イメージした内容を振り付けにしていき、サビ部分の振り付けを完成させていく。ダンスの過程を撮影し、相手校へ送る。	○	○		
6 検討会	相手校のダンスの映像を見て、身体の動きや表現を捉え、言葉にすることができる。	相手校のダンスの過程を動画で視聴する。自分たちの動きや振りと比較して気づく点を挙げ、伝える。	○		○	
7 遠隔③	相手のダンスの振り付けを見て、身体の動きや表現を捉え、言葉にして相手に伝えることができる。	完成した1番～サビ部分の振り付けを発表し、評価し合う。(X校⇒桐が丘⇒評価)相手の動きの特徴や振り付けに着目し、口頭で伝えあう。		○	○	
8	遠隔授業における、自己と他者の考え方や表現方法を振り返る。	遠隔授業を振り返り、気づきや感じたことを話し合い、自己評価を行う。			○	○

(2) 遠隔合同授業の実施

①接続校との打ち合わせ

今年度の遠隔合同授業について、x校教員とZoomを使用し打ち合わせを行った。各校の生徒の実態や障害の状況を確認し、学習上の課題などを教員間で共有した上で、授業のねらいや指導上配慮が必要なことについて確認を行った。また、各校の年間指導計画に基づき、おおよその単元や時期を確認し、実施計画を作成した。ダンスを題材に、それぞれの学校の学びの履歴に応じて、目標を設定し、接続機会の回数を検討し授業を実施することとした。打ち合わせごとに、単元や授業時における手立て・配慮或使用機器についても確認を行い、互いの生徒の学習状況を把握し、情報共有を行った。また、遠隔合同授業を実施する前には、当日の流れ、教員の動きと役割について、生徒達の活動や支援することなどの確認を行った。

②遠隔合同授業の実施

打ち合わせの結果、3回の遠隔合同授業を行う日を設定し、接続を行わない日では次回の遠隔合同授業に向けて生徒たちが楽曲テーマを確認したり、テーマに沿った振り付けを考えたり練習したりする時間とした。遠隔合同授業を効果的に行うために、接続しない授業時間を含め、単元計画を共有し、それぞれの学校でどのように学びを進めるかの確認を行った。

③授業の記録

授業の記録については、Zoomの録画機能を用いた。遠隔合同授業実施後の各生徒の自己評価として、双方の生徒に振り返りワークシートを用いた。

Ⅲ. 結果

1. 対象授業における生徒の様子

遠隔合同授業1回目では、話し合いの中で、自校の中だけでは出ない様々な意見があることを受け止め、双方の意見を集約していくことで共通のテーマの設定をし、目指すダンスの方向性を決めることを目的とした。初めての顔合わせによる少し緊張した表情や控えめな発言をする様子が見られた。生徒に行った踊りたい楽曲決めの事前アンケートで決定した楽曲（AKB48の365日の紙飛行機）を聞き、各校ごとに楽曲の印象や感じとったことをテーマになりそのような言葉として挙げていった。お互いの学校で出た意見を共有し、テーマ『高校生活の自由な挑戦を応援しよう』を決定していく中で、相手校から出る意見の新しさや自分たちとは違った観点から楽曲を捉えている意見を聞き、うなずいたり感心したりする様子があった。しかしながら、1回目では意見交換を行う際に1つのモニターを通して話し合いを行った分、意見を伝えあう時間が少なかったため、2回目の遠隔合同授業

では、生徒同士の活発な意見交換をする機会があるとより多くの意見や考え方に触れることができそうであった。(写真1)



写真1 1回目の遠隔合同授業の様子

2回目の遠隔合同授業では、グループでの話し合いの中で、自己の表現の特徴や工夫点、意識したことなどを伝え合うことを目的とした。当校とx校の生徒を1人ずつペアに設定し、前回決定したテーマと楽曲に対して自由にソロダンスを行う様子を見合う活動を行った。歌詞を素直に身体で表現する様子や楽曲の雰囲気に合わせて手や車いすを動かしている様子が見られた。その後、3グループに分かれてダンスを評価し合うグループワークを行った。ペアに設定した生徒は、障害の程度が似ていたり、動きや活動の仕方が似ていたりする生徒を合わせたことで、自分のダンスとの違いを捉えやすくなっている様子が見られた。グループワークの中ではワークシートを用い、メモを取りつつ相手から自分のダンスに対する評価を受け止めたり、相手のダンスを見て自分が感じたことを伝えたりすることができていた。自分が感じたことを相手にどう伝えるか言葉を選びながら話す場面もあった。相手のダンスについて「大空に飛ぶような感じがよく表現されていた。」や「力強く踊っていて、夢を押している感じだった。」というコメントを伝えていた。相手から自分のダンスがどう見えていたのかを聞くことができ、うれしさを見せる生徒もいた。また、自分の表現の工夫を言葉ではなく実際に電動車いすを動かして動きで伝えるなど、遠隔合同授業ならではの伝え方の工夫も見られた。(写真2)

グループワークによる少人数でのやり取りで生徒一人一人に発言する機会を与えられたことやペアを設定したことで相手のダンスに集中することができ、相手からの意見を受け止めやすくなっていた。

3回目の遠隔合同授業では、自己の表現、集団での表現それぞれの特徴や工夫点、意識したことなどを伝え合うことを目的とした。そこで、テーマを表す各校の生徒全員による集団ダンスの発表と評価をし合うという活動を行った。ソロダンスと違い、集団で動きを合わせることや空間を使った振り付け、道具も活用した振り付けで表現するなどの工夫が見られた。また、モニター越しに



写真2 グループワークの様子

相手のダンスを見ることから全体のバランスや隊列なども考えて表現するなどの工夫も見られた。(写真3)

発表後には、両校の生徒たち同士で自由に感想を伝え合い、気になった表現について質問や回答を繰り返す様子が見られた。

x「手に持っている猫の形のものは何ですか？」

桐「ペンライトです。応援というイメージを考えた時に、二人ともアイドルが好きなので、アイドルのライブの応援の仕方といえばペンライトを使うよねと工夫しました。」

全「(笑)」

桐「高校生活っばい。(笑)」

普段、発言が少ない生徒が自信を持って自分の考えた表現方法を伝えていたり、見て感じたことを素直に相手に伝えたりすることができた。(写真4)

また、相手の良かった点や工夫点を受け止めて、車いすや身体の使い方などを自身の表現方法として活かしたり、新たな表現方法として道具の活用を考えられるよう



写真3 集団発表の隊列の様子



写真4 道具を使った工夫を伝える様子

になっていたりする様子が見られた。

2. 遠隔合同授業後の生徒の振り返り

3回の遠隔合同授業それぞれの終わりに振り返りワークシートを用いて感想や考えたことを文章にして振り返る活動を行った。当校生徒がこれまで行ってきた振り返り等における文章は、語彙が少なく抽象的なものが比較的多かった。今回の振り返りでも1回目の遠隔合同授業後はあまり文章を書いている様子はなかったが、一部生徒の振り返りの中には、「楽曲のイメージを出し合う所で桐が丘からは出なかった意見が出てイメージがふくらみやすくなった」や「相手校の生徒と自校で考えることが全く違うため、同一のテーマを決めることがいつもより難しく感じた」といった感想が出ていた。限られた時間内で話し合うという場面において、様々な意見が出ることの良さを感じたり、意見をまとめるために必要なことに気づき出したりしたようであった。(図1)

2回目のグループワーク後には相手に意見したことや相手の意見を聞いたことによる具体的な内容を記入している生徒が多かった。「複雑すぎない振りつけがシンプルで分かりやすい」、「手の動きではできない振り付けに限度があるため、車いすの動きを利用した振り付けをした」といった内容が書かれており(図2)、話し合いで理解したことや実際に自分が動いて経験したことで技能の習得につながっているようであった。

3回目の集団ダンス発表と評価後には、自分の考えた工夫や伝えあった意見を振り返り、遠隔合同授業全体を通して自分の考えが変わったことや新たな気づきがあったことを記入した。言葉でうまく伝えきれず、文章でも伝えることが苦手な傾向のあった生徒が、「相手へ伝える

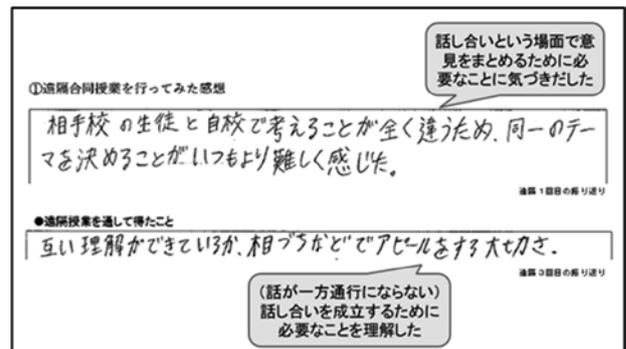


図1 生徒の振り返り内容①

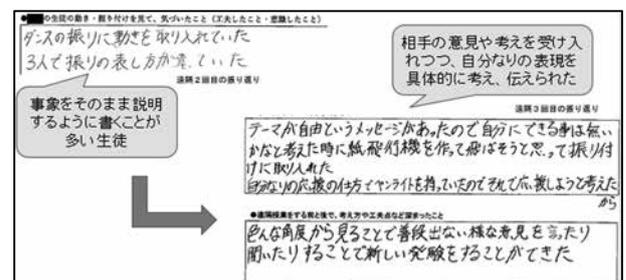


図2 生徒の振り返り内容②

ときに言葉だけでなく体全体をつかう等もあると感じた」(図3)と書いており、相手に合わせて伝え方を工夫し、コミュニケーションの方法を獲得できたようであった。

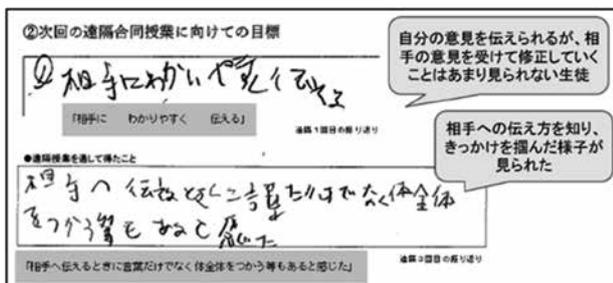


図3 生徒の振り返り内容③

3回の遠隔合同授業を通して表現方法の工夫を考えられるようになったことも成果だが、遠隔先のx校の生徒に分かりやすい伝え方を考えたことで、文章内容に具体的な言葉が増え、説明する力がついてきている様子が見られたことも成果であった。

IV. 考察

1. 生徒の様子から

生徒たちが自分たちの中でダンスを考えて発表して評価するというだけでダンスにおける表現方法が完結するものではないという意識を徐々に持つことができていき、授業を重ねていく中でより良いものを創り上げていこうと前向きに取り組んでいた。

初めての遠隔合同授業を経験していることもあり、同世代の違う仲間と共に活動していることが向上心を生んでいた。また、接続先のx校の運動観察を通して、生徒たちがそれぞれの障害に応じた運動の仕方や課題の解決方法などを見る、聞く、話す、実践するといった学習過程から自分に合った技能の獲得を目指し、挑戦することができた。

遠隔合同授業の目的であった、自分の考えを相手に伝えること、相手の意見を聞くこと、伝え合った意見を踏まえて自分なりの表現方法を見つけ、技能を獲得していくことが生徒たちにとって一つのきっかけとなり、自信になり、成果につながったと考える。

2. 授業者の振り返り

遠隔合同授業特有の通信による遅延も生徒の理解を妨げる要因となりうる可能性があると考えた。今回のダンスのような音と合わせた表現において遅延による音ズレや画質の低下などはできる限り避けていきたいポイントである。事前に通信環境や電波の良し悪しを確認しておき、生徒たちがスムーズに学べる環境を整えることを心掛けたい。

また、授業を行った教員間では、グループを分けた際

の教員配置及び生徒たちへのアプローチの仕方が課題であったと振り返った。話し合い活動を進めていく中で、教員の声掛け一つで生徒の発言が変わったり、理解が進んだりすることから、話し合いの方向性を全グループ同じに持って行くことが難しくなってしまう。生徒の実態から発言機会の振り方やポイントの整理を教員間で一緒に行うようにするなど、より一層の準備をすることが必要だと考えた。

(文責：永田 悠祐)

V. 引用・参考文献

- 1) 寒河江核 (2022) 筑波大学附属桐が丘特別支援学校 研究紀要 第57巻, 29-36
- 2) 文部科学省 (2019) 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 保健体育編・体育編